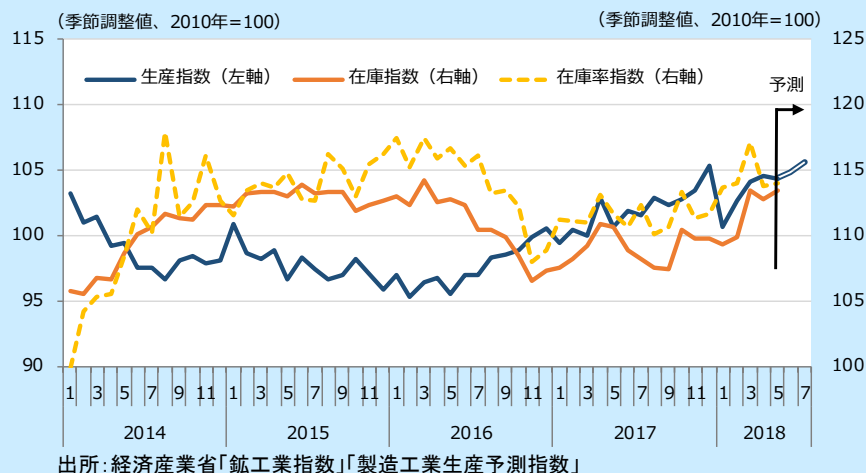


日本：鉱工業生産指数（2018年5月）

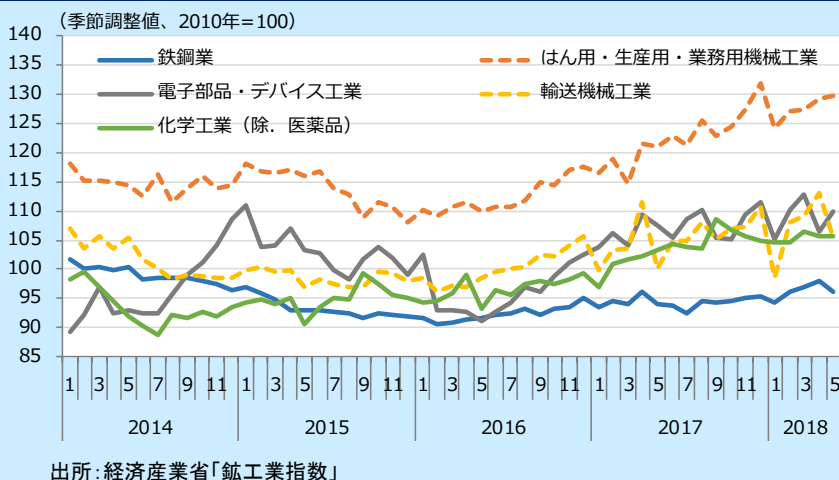
—自動車が下振れたものの、生産は回復基調を維持—

MRI Daily Economic Points
July 2, 2018

鉱工業生産 / 在庫指数



変動への寄与が大きい業種の生産指数



評価ポイント

今回の結果

- 2018年5月の鉱工業生産指数(速報)は、季調済前月比▲0.2%と4ヶ月ぶりに低下したものの、高水準で推移している。
- 業種別にみると、15業種のうち6業種が前月比で低下。普通乗用車を中心に輸送機械工業(前月比▲6.9%)が大幅に低下し、全体を押し下げた。その他、鉄鋼業(同▲1.9%)や非鉄金属工業(同▲1.8%)などが低下した。
- 一方、はん用・生産用・業務用機械工業(同+0.5%)は引き続き改善が続いたほか、パソコンや半導体関連などを中心に情報通信機械工業(同+3.8%)や、電子部品・デバイス工業(同+3.4%)など8業種が上昇した。
- 在庫指数は前月比+0.6%と上昇。2018年以降、電子部品・デバイス工業を中心に在庫指数や在庫率指数は上昇傾向にある。在庫が積み上がりつつあり、今後、在庫調整が生産の抑制要因となることも考えられる。
- 製造工業生産予測調査によると、6月の生産は前月比+0.4%と増加する見込み。ただし、経済産業省の補正値は同▲0.1%程度となっているほか、6月中旬に発生した大阪北部地震の影響は反映されていないため、6月の実績値は下振れる可能性が高い。

基調判断と今後の流れ

- 生産は、2018年以降は振れがみられるものの、今後の生産計画も含め、均してみれば回復基調を維持している。
- 先行きも、堅調な世界経済を背景とした輸出拡大や、所得環境の改善による内需回復が期待されることから、緩やかな拡大基調を維持するだろう。
- ただし、①半導体関連需要の調整、②米国の保護主義化に端を発する世界貿易・経済の下振れ、③トランプ政権が検討を始めた自動車への関税引き上げ、などリスク要因には注視する必要がある。